

言葉遊び

随筆の用命を頂いた。何を書くべきか迷ったが、ラッパーとして日頃から使っている言葉について書いてみることにした。

言葉は、意味や現象を伝える記号であり、コミュニケーションを円滑にする道具だ。抽象的な考えを共有し、時間とともに発展してきた。私たちの社会には、絵画や舞踊、音楽などさまざまな表現方法があるが、言葉はそれらに比べて比較的新しい表現手段であり、より洗練され便利になっている。その結果、コミュニケーション量が飛躍的に増え、文明の目覚ましい発展につながった。

さまざまな表現方法の中でも、言葉は最も利便性が高いと言えるのではないか。

しかし、利便さや合理性には欠点もある。言葉は世界の多様な現象を記号化して意味を伝えるが、その過程で簡潔さを求めるあまり、境界の周辺、曖昧な部分が省略されてしまうことがある。例えば、水蒸気と水、氷の間には本来、はっきりした境界は存在しない。それぞれを別々の概念として記号化し、区分しているのは私たちに過ぎない。

このように、言葉は現象を型に取り、鑄造するように記号に変えてしまう。まるで、世界から意味という鑄物を取り出すように。そのため、言葉はある意味では暴力的とも言える。

と、いろいろと理屈っぽいことを書いたが、私は単純に言葉という道具で遊ぶのが好きだ。例えば、

環ROY

始まりはことば／テーブルにはココア／

リビング 散らかってるおもちゃ／子供はいつからなる大人／

言葉はある意味暴力／絵画の中で溶けたロウソク／

一二三四つぎ 五六／抗えない物理の法則／

これらのフレーズは、意味としての関係をほとんど持たない。しかし、同じ母音の響きが反復することで、あたかも強い関係があるかのように感じられる。というか、母音を揃えることで強引に関係を作っている。言葉遊びは、意味よりも音の響きの関係を重視することで、意味から言葉を引き離す働きがあると分かる。

言葉はもともと純粋な音から始まった。最初は仲間達に危険を知らせる音や協働のための掛け声として使われ、次第に意味が複雑化し、社会とともに発展してきたのではないだろうか。言葉遊びを考えることは、言葉の音の側面に着目し、言葉のもともとの姿を想像することでもある。

また理屈っぽいことを書いたが、ともかく、予想もしなかった言葉が繋がり、想像もしていなかったイメージが生まれることが、私にとっての言葉遊びの魅力だ。この楽しさは今後もきつと変わらないただろう。私は言葉遊びが好きだ。

(たまきろい・ラッパー)